

平成 31 年（令和元）度福祉サービス第三者評価

評価結果報告書

【日本大学認定こども園】

令和 2 年 5 月

株式会社 にほんの福祉ネット

## 評点基準

事業評価では、以下の評点等により各評価項目を評価します。評点では表現しきれない貴事業所の実態やサービスの質については、講評に記載します。利用者調査には、評点はつきません。

### 評点基準 <カテゴリー1～6>

評点は、標準項目の実施状況を以下のルールに基づき、記号化したもので、評価項目ごとにつける。  
 1 標準項目の実施が確認できた場合は○、未実施・確認不可の場合は●で表す  
 2 ○及び●が混在する場合は、標準項目の順番にかかわらず、左端から○を配列し、●は右端に寄せて表す。  
 3 「非該当」が選択された標準項目は、評点の構成要素から除く

標準項目の定義	東京都内の福祉サービス事業者が、福祉サービスの質の向上を図る観点から、標準的に実施していることが必要であると認められる事項、または、実施するための仕組み（取り組み）があることが必要であると認められる事項をいう。
確認方法	標準項目を確認したものとするができるのは、次のすべてを満たした場合とする。 ア 事業者が当該事項を実施していること イ その実施が継続的（必要性を認識し、計画的）であること ウ その根拠が示せること

### 評点基準<カテゴリー7>

「目標の設定と取り組み」「取り組みと検証」「検証結果の反映」については、確認できた内容（それぞれ一つ）が●で表されます。

確認方法	事業者がそれぞれの重要課題について前年度に具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証した上で、今年度以降の目標設定や取り組みに反映しているかどうかの確認とする。
------	--

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>教育・保育理念 “のびのびと自分を発揮し、人とともに生きる子どもに” 子どもは、ありのままを受け止め、あたたかく見守ってくれる大人との関りに安心すると、外の世界にも目を向けていきます。 やってみることで「できる」ことも、「できない」ことも体験します。それを人のかかわりや、自分の力にしていく過程を通して、自分を発揮していきます。 このような積み重ねが、生きる力の基礎となっていくのです。</p> <p>教育・保育目標 “心豊かな子ども 友達と遊びを楽しむ子ども 自ら環境にかかわって考える子ども”の育成</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <p>教育・保育理念に沿って子どもとかかわりが出来る人材。子どもと笑顔で接し、一貫性のある対応で子どもの関わり合いが出来る。 保護者以外で子どもが長時間接する大人として、あたたかく見守ると同時に子どもの間違っただ行動を毅然と軌道修正できる人材。 視野を広く持ち、子どもの行動を見守ることができる。 学年別の子どもの成長度合いに合わせて、運動や制作、音楽活動が出来る、又はそれに向けて自ら学ぶことが出来る人材。 保護者に寄りそえ、保護者からの相談にも真摯に対応する。</p> <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>どの園児・保護者にも一貫した対応が出来る。 保護者以外に長時間園児に接する大人として、園児の成長に寄り添える人材。 個人情報保護や衛生管理等決められた事に対応できる人材。</p>

調査対象

全180名148世帯を対象に実施。

調査方法

アンケート調査票の配付は保育園を通じて保護者へ手渡し、回収は園に設置した回収箱への投函、および、評価機関への郵送によった。

利用者総数  
利用者家族総数(世帯)  
共通評価項目による調査対象者数  
共通評価項目による調査の有効回答者数  
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

180

148

148

93

62.8

## 利用者調査全体のコメント

## ＜総合的な満足度＞

「満足」64%、「まあまあ満足」32%、合わせて96%という満足度が示された。

## ＜調査結果の講評について＞

- ・質問における各回答の割合については、無回答は除いた。
- ・肯定的な評価（「はい」との回答）が全体に占める割合についてのみ、記述した。

## 利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 運動や休息の配分は、子どもの発達の状態や在園時間に応じて工夫されているか	76	10	5	2
回答者の84%が「はい」と回答した。				
2. 園での活動は、子どもの教育や心身の発達に役立っているか	92	0	0	1
回答者全員が「はい」と回答した。				
3. 園での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	85	7	0	1
回答者の92%が「はい」と回答した。				

4. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	79	11	2	1
回答者の86%が「はい」と回答した。				
5. 園の生活の中で、身近な自然や社会と十分関わっているか	74	11	8	0
回答者の79%が「はい」と回答した。				
6. 保育時間の変更が急きょ必要になった場合、開園時間内において、園の可能な限り、柔軟に対応されていると思うか	70	8	1	14
回答者の89%が「はい」と回答した。				
7. 安全対策が十分取られていると思うか	78	11	1	3
回答者の87%が「はい」と回答した。				
8. 園の活動に保護者が参加しやすいよう、工夫されているか	73	14	3	3
回答者の81%が「はい」と回答した。				
9. 子どもの教育・保育について家庭と園に信頼関係があるか	77	14	0	2
回答者の85%が「はい」と回答した。				
10. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	87	3	1	2
回答者の96%が「はい」と回答した。				

11. 職員の接遇・態度は適切か	86	3	1	3
回答者の96%が「はい」と回答した。				
12. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	85	4	1	3
回答者の94%が「はい」と回答した。				
13. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	60	22	2	9
回答者の72%が「はい」と回答した。				
14. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	86	4	0	3
回答者の96%が「はい」と回答した。				
15. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	75	7	1	10
回答者の90%が「はい」と回答した。				
16. 教育・保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	74	14	1	4
回答者の83%が「はい」と回答した。				
17. 利用者の不満や要望は対応されているか	72	10	1	10
回答者の87%が「はい」と回答した。				

18. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	37	22	9	25
回答者の87%が「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目（カテゴリ1～5、7）

No.	共通評価項目		
1	カテゴリ1		
	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○ 非該当	
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当	
カテゴリ1の講評			
<p>年度当初に方向性の確認を行っている</p> <p>大規模な園を運営していくにあたり、職員による方針、目標などの共有は不可欠である。そのため、方向性の共有と浸透を図るための機会を設けている。年度当初には、非正規職員の力を借りることで安定的な教育・保育の実施を確保した上で、正規職員が全員出席する会議を開催している。ここでは、保育計画を示し、理念やビジョン、基本方針、「何を大事にして保育していくか」「どんな子どもに育てたいか」などについて話し、一年間の方向性を確認している。保護者に対しては、入園説明会や入園前の保護者説明会などで理念などについて発信している。</p> <p>方向性や視点を示し、個々に応じた指導を行い、運営をリードしている</p> <p>運営上のリーダーシップを発揮する役割は、主に園長が担っている。園長は、日々の保育実践において職員が共通理解すべき方向性を示し、踏まえるべき視点などを適宜指導・助言を通して各自の意識化を図り、一人ひとりの日々の努力が組織全体の目標の追求につながっていくように取り組んでいる。また、同じ言葉であっても職員によって捉え方に違いが生ずることもある。そのため、個々の理解や受け止め方、成長の度合いなどを踏まえながら指導している。</p> <p>確立された決定プロセスに則って検討・決定・周知を図っている</p> <p>重要な案件については、園長、副園長、法人の事務長で構成される役職会議において検討し、法人の付属学校課へ伝え、関係する各部署での手続きを経て決定される仕組みがある。この役職会議は、園と法人双方の動きを共有し課題の解決を図る役割を果たしている。そして、必要と判断した場合は途中経過や決定事項を、昼礼や会議を通して職員に発信している。案件によっては、例えば保育の無償化などについては、保護者の関心が高いものの、行政の判断を待つ必要がある。こうした場合は、分かる範囲で随時伝えることで、関心に応えている。</p>			



2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
2 カテゴリー2の講評		
<p>広くニーズを収集している</p> <p>行事後のアンケートの実施や意見箱の設置のほか、朝は玄関に立ち、保護者が声をかけやすいよう配慮している。寄せられた意見については、それを踏まえた対応と合わせて掲示している。多くのケースで説明によって疑問や要望は解消されている。職員については、定期的な面談により個々のねらいや課題の現状とともに意向を確認している。地域の実情については、区独自の取り組みである公立・私立、認可・無認可の枠を超えて保育の質を高める地域活動ネットワーク(保育ネット)や、区の要保護児童支援協議会などに参加することで、情報を得ている。</p> <p>明確な視点に基づく運営状況の確認を行っている</p> <p>法人として定めた中長期計画が、園運営の大まかな方向性を定めている。各年の園運営は、自己評価票を活用して「教育課程・指導」「園生活への配慮」「情報提供・管理」「管理運営」「保護者との連携・子育て支援等」「地域との連携」などの項目に沿って年度ごとの課題や目標を設定している。その上で、年度末に総括を行い、達成状況を確認し、次期の課題や目標の設定につなげている。また、学校法人として内部監査を受けており、会計、教育・保育、園児に関わる管理運営、法令・規程などの項目に沿って点検と是正を行っている。</p>		

3 経営における社会的責任			カテゴリ-3	
サブカテゴリ-1(3-1)				
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>2/2</b>	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる			○ 非該当
● あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している			○ 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)				
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>4/4</b>	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている			○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある			○ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している			○ 非該当
● あり ○ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている			○ 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)				
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>5/5</b>	
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる			○ 非該当
● あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している			○ 非該当

評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ3の講評		
<p><b>基本的共通事項を文書化し、周知を図っている</b>  組織の一員として遵守すべき事柄を、様々な規程や規則として定め、入職の段階で説明している。また、「教育・保育従事者の心得」として教職員ハンドブックを作成している。ここでは、日常の教育・保育を実施する上での配慮、意見・要望・苦情への対応、子どもの安全を守るためのポイントなどに加え、基本的共通事項として区の「保育の質ガイドライン」の諸要素を示し、専門職としての質の向上の責務を明確化している。このハンドブックを共通理解の土台とし、各自の学びや実践を奨励している。</p> <p><b>意見・要望・苦情の受付・解決のプロセスに則って迅速に対応している</b>  意見・要望・苦情の受付・解決のプロセスを確立し、重要事項説明書などにも記載し、保護者に案内している。事案についてすぐに行えること、時間を要することに分け、保護者に伝えている。対応が出来ないことについては、事情を説明し理解を求めている。保護者の訴えを受け止め、改善策や対応策をとる、場合によっては法人や区の保育課に相談するなどし、解決を図ることとしている。対応の経緯は記録に残し、事後の確認や対応の向上に供している。</p> <p><b>地域への貢献や他園との交流・連携を図っている</b>  地域の子育て世帯を対象に、様々なプログラムを企画し、交流や体験、相談の場を提供している。園庭を開放して遊びに供したり、運動指導を受けたり、助産婦を招いて入園前におきたいことなどを確認するなど、交流にとどまらず悩みや疑問の解消にもつなげている。ニーズの高い取り組みであり、参加者にも好評である。区内の保育・教育施設とは、上記の保育ネットへの参加を通して研修を行ったり、私立園長会では地域の複数の園とグループを作り(となり組)、園長や副園長同士で情報交換や共通課題への取り組みなどを行っている。</p>		
カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>4/5</b>
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇●)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	

サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○ 非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>安全な施設環境の維持に取り組んでいる</p> <p>評価項目が想定するリスクの分類や優先順位の設定などは現状ではハードルが高く、実施は困難である。園としては、子どもの命を最優先として、日頃の事故や怪我の予防に取り組むとともに、感染症対策などの衛生・健康面の管理体制を整え、また、災害を想定した避難訓練を実施するなど、実現可能な範囲で最大限安全の確保に取り組んでいる。そのほか、保健衛生師が毎月来園し、教室の温度や湿度、照度の測定、ごみ処理や掃除の状況、水道水や飲料水の状態の確認などを行っている。</p> <p>守るべきもの、優先すべきものを踏まえた危機対応を行っている</p> <p>大型台風の襲来に備えた事前準備、実際の対応、それらの総括を行うことで、現状の危機対応の体制の課題を整理している。登降園時の子ども・保護者や教職員の安全確保の視点から、起こりうる事態を場合分けし、各場合における対応策を策定した。保護者への緊急メールの配信内容も事態別に作成し、事態の変化に応じて迅速に発信しうる態勢を整えていた。当日は区の窓口も業務を休止していた中、命の安全を第一に考えた決断と対応策の準備は、「何を優先すべきか」を常に念頭に置いて運営を行ってきたがゆえに、動じることなく出来たものであると言える。</p> <p>厳格な情報管理を行っている。</p> <p>法人の規程に則り、個人情報保護法の遵守、保護の責務、情報の取得・提供・安全管理・開示などのあり方を明確に定めている。情報の性質によっては、鍵のかかる場所にて管理している。パソコンの利用についても、パスワードを発行し、サーバーへのログインには個人のIDやパスワードの入力を必須としている。情報の外部への持ち出しやそれにつながる媒体(USBメモリなど)の利用も禁止するなど、安全な管理に努めている。</p>		
カテゴリ-5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(00)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(00)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○ 非該当

評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	3/3
----------------	-----------------------	-----

評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ5の講評

**理念を踏まえた職員各自の自己目標の追求を支援している**  
 職員一人ひとりが各自の目標を意識して、一年を通して保育の実践や資質の向上に取り組んでいけるよう工夫している。年度当初に「園の教育・保育理念を踏まえた自己目標」を設定している。目標は、子どもの理解、子どもが自ら興味を持って遊べる保育、自己の資質の向上への努力、園の教育目標・教育姿勢の理解と実現、保護者対応・支援、計画的なクラス・学年運営、適切な後輩指導、協働・協力的な仕事の実現などの10の視点に沿って設定し、園長と確認や振り返りを行っている。また、自己評価により出来たことと次期への課題の明確化を図っている。

**プロジェクトを中心に共通の目標に向けて協働している**  
 園のねらいの達成に向けてテーマを設定し、各年齢から選出した担当者で構成されるプロジェクトを立ち上げ、計画的に取り組んでいる。開園3年目を迎えた今年度の重点課題を「つながる保育」の視点に立った計画の見直しとし、子どもの発達を改めて学び、確認し、共通認識を促進し、保育観の摺り合わせを行っている。理念と関連付けたこうしたチームとしての取り組みを通して、園としての保育の軸を改めて確認し、計画に基づく保育の展開の中でいかにしてその実践を図っていくか、一丸となって追求している。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【前提】「教育課程・指導」「園生活への配慮」「情報提供・管理」「管理運営」「保護者との連携・子育て支援等」「地域との連携」の各項目に沿って各年度の取り組み目標を設定し、取組結果や進捗状況を確認・総括している。

【取り組み】前年度は、「教育課程・指導」を例にとれば、「主体的に遊びこむことが出来る環境作り」を取り組み目標の一つに掲げ、園庭を活用して野菜を栽培し、草木や木々を植え、集まってくる昆虫に触れたり、季節の移り変わりを感じたりできる環境を整えた。また、子どもの想像の広がりを意図して、色のない木製玩具を導入し、さらに成長・発達に応じた手作り玩具も準備した。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

次年度も引き続き、園庭の整備に取り組んでいく方針である。また、玩具の提供にあたり、根本的な視点から振り返りを行い、今一度共通理解を深めていく方針である。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【前提】「教育課程・指導」「園生活への配慮」「情報提供・管理」「管理運営」「保護者との連携・子育て支援等」「地域との連携」の各項目に沿って各年度の取り組み目標を設定し、取組結果や進捗状況を確認・総括している。

【取り組み】前年度は、「情報提供・管理」を例にとれば、「教職員での情報の共有」を取り組み目標に掲げ、長時間の開園時間にもなう全員参加の会議の難しさを踏まえて、土曜日に全職員が出勤し、研修や情報共有に取り組んだ。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

次年度も引き続き、情報の共有化に取り組んでいく方針である。全員参加の会議を土曜日に設定し、隔月で開催していくことで、共通認識の促進、園全体の様子の把握、相互の情報共有を図っていく見通しである。

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリー1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		○ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
<p>ホームページを通して園の特色や入園手続きに関する情報を発信している</p> <p>ホームページを通して、園の特色や生活・活動の様子、施設概要などの情報を発信している。保育の理念や目標に込めた想いに始まり、年齢や認定区分の違いによる一日の生活のあり方、園庭の俯瞰図、園舎や各保育室の特色などについて、イラストや写真を用いて案内している。そのほか、1号認定、2・3号認定それぞれの募集要項を掲載し、それぞれの入園手続きに関わる情報も提供している。空き情報を含めた園の現況については、区・保育課に伝える仕組みがあり、随時最新情報を提供している。</p> <p>見学の受け入れのほか、入園希望者を対象に説明会を行っている</p> <p>見学の希望には、乳児・幼児それぞれに曜日を設定し、午前中の時間帯で実施している。また、入園説明会を開催し、園の特色やねらい・方針などを説明し、子どもの活動の様子を収めた写真や動画を活用しながら日常生活の様子にも触れる機会としている。入園の決定プロセスの性質上、見学や説明会への出席がそのまま実際の入園に結びつくわけではないが、これらの機会を利用して、幼稚園と保育園の両機能というこども園の特色、子育て支援事業などについて説明を行い、ニーズに応じて相談への対応も行っている。</p>			



サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの指導・援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-2の講評			
<p>説明会、保護者会を通して、利用手続き、利用上の留意事項について説明している</p> <p>入園の決定前(秋)に入園説明会を開催している。この機会に、園の特色やねらい・方針など、こども園の全般について説明を行い、参加者の疑問などに応えている。その後、新年度が始まる前の段階で入園決定者を対象に保護者会を開催している。ここでは、改めて利用に関する基本的なルールの詳細や留意事項、準備が必要なこと、一年間の見通しなどについて説明している。その上で、説明に対する理解と同意を明確化する意味で、重要事項説明書を踏まえた同意書によりその意思を確認している。</p> <p>新たな環境で安心して過ごせるよう支援している</p> <p>健康状態については、既往歴や予防接種の状況、体質的な特徴、アレルギーの有無などの点を中心に児童票に記録している。入園までの生活状況については、食事、睡眠、排泄、清潔、着脱、表現・理解などの言葉の発達状況などの項目に沿って状況を記録している。入園直後は、特に乳児クラスの場合、一人ひとりの生活リズムを重視し、不安や思いを受け止め、安心できる大人とのかかわりの中で徐々に慣れていけるように援助している。保護者にも園での子どもの様子を積極的に伝え、保護者自身の不安も受け止め、信頼関係の構築に努めている。</p>			

サブカテゴリ-3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況 13/13

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当

評価項目2

全体的な計画(教育課程を含む)や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画(教育課程を含む)を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの様子や子どもを取り巻く状況に即して、指導の過程についての反省や評価を行い、作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○ 非該当

評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な指導・援助内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、指導・援助を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員一人ひとりが指導事例を持ち寄り、話し合う場を設けることで職員の専門性を高め、一人ひとりの幼児理解を共有化している	○ 非該当

サブカテゴリ-3の講評

各年齢に応じた指導計画を作成し、実践を経て見直しを行っている

国が定めた幼保連携型認定こども園教育・保育要領、法人・園として設定した教育・保育の目標や基本方針を踏まえて、園として進めていく教育・保育の内容・方向性について、全体的な計画としてまとめている。その上で、教育・保育目標を具体化する実践計画として各年齢ごとに指導計画を作成している。計画は、子どもの様子を踏まえて、定期的に会議で検討し、振り返り・見直しを行っている。

計画に基づく教育・保育の実施と子どもの育ちを記録し、必要な援助につなげている

作成した各クラスの年間指導計画を具体化するものとして月間・週間の各指導計画を作成し、目標を踏まえてねらいを設定し、予想される子どもの姿・活動を踏まえて環境・構成上の取り組み内容、必要な援助・配慮などを明らかにして、保育者によるかかわりと子どもの様子を記録している。その上で、養護・健康・人間関係・環境・言葉・表現の各領域における子どもの育ちを確認し、必要な援助を提供している。日々の保育のねらいは、園内に掲示するほか、保護者会においても説明することで、保護者の関心を喚起している。

サブカテゴリ-5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

子どものプライバシー保護を徹底している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した指導・援助を行っている	○ 非該当

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 日常の教育・保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した指導・援助を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当

サブカテゴリ-5の講評

日常の中でプライバシーの保護を徹底している

①教育・保育効果を高めるため、②適切な管理のため、③健康管理のため、④必要時の連絡のため、⑤その他正当な理由のために個人情報を使用することについて、入園時に重要事項説明書に基づいて説明し、保護者の同意を得ている。写真掲載についても意向を確認して対応している。羞恥心への配慮としては、オムツ交換は専用の場所を決めて他からの視線を遮るよう工夫し、トイレ使用時は扉を閉め、お漏らしはさり気ない着替えを支援、着替えは上下順番にして肌の露出を少なくし、プールは他から見えない場所に設置するなど、工夫している。

集団生活の中であつても子ども一人ひとりに目を向け丁寧に関わっている

子どもの呼び名は「ちゃん」「くん」を基本に、呼び捨て・あだ名を含む差別用語・プライドを傷つける言葉の暴力には気を付け、無意識に使っていないか職員間で確認している。乳児はその子どもの誕生日にお祝いをし、幼児は月毎に誕生会を実施している。幼児もその子どもの誕生日を大切に、全園児に「たんじょうびおめでとう」の絵本を1冊ずつプレゼントしている。生活の区切りで気持ちの切り替えが難しい場合は、一人ひとりの気持ちに寄り添い丁寧に関わっている。集団生活の中においても「個人」に目を向け尊重する質の高い保育を実践している。

職員が常に学びながら、子どもの人格を尊重した援助を追求している

子どもの表情や仕草など小さなサインを見逃さず、保護者の子育ての不安や気がかりについても傾聴し、様々な課題にも専門職の視点で取り組んでいる。虐待防止については法人のハンドブックを職員に配布し読み合わせ、外部研修に参加して伝達研修で職員が学び、行政の虐待防止パンフレットを玄関に掲示し、早期発見出来るよう意識を高めている。職員が子どもの気持ちを傷つける不適切な言動をしないよう勤務態度は園長・副園長が見守っている。気になる子どもに関しては職員間で状況を確認し、必要に応じて関係機関と連携する体制を整えている。

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		<b>評点(〇〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
● あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○ 非該当
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		<b>評点(〇〇)</b>	
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>		
● あり ○ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		○ 非該当
<b>サブカテゴリー6の講評</b>			
<p><b>踏まえるべき事柄を明確化し、統一的な対応を図っている</b></p> <p>安全で快適な施設環境を維持していくべく、危機管理に関わる日々の留意事項や対応手順をマニュアルとして明確化している。区の「保育安全マニュアル」や厚労省発行の「食事の提供ガイドライン」なども、踏まえるべきものとして活用している。日常の教育・保育の実践の面では、年間指導計画の共有、月間・週間の各指導計画における必要な援助内容や配慮事項などの具体的な記載などにより、子どもに関わる職員が統一的な対応をとることが出来るようにしている。</p> <p><b>共通認識の促進、創意工夫の奨励、個別の指導を日々行っている</b></p> <p>「教育・保育従事者の心得」として教職員ハンドブックを作成・配布している。これにより、日常の教育・保育を実施する上での配慮、子どもの安全を守るためのポイント、基本的共通事項として区の「保育の質ガイドライン」の諸要素などを示し、共通理解の土台とし、その上で各自の自主的・主体的な創意工夫を奨励している。また、設定した自己目標に基づく振り返りや自己評価による各自の課題の抽出、日々の助言、日誌を中心とする記録類への指導などを通して、一人ひとりの成長を促し、組織全体の水準の向上を図っている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

		サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35 / 35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた指導・援助を行っている			
		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで指導・援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の教育・保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう指導・援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、指導・援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目1の講評			
<p>詳細な記録を活かして子ども一人ひとりの状況を把握し育ちを支援している</p> <p>子どもが生活の中で必要な体験が出来るよう、一人ひとりの発達に応じた教育・保育に取り組んでいる。新入園児は児童票や個別面談、在園児は年度毎に確認する児童票や面談、その他様々な記録を基に、発達の過程や生活環境を十分に把握して、指導計画や子どもの接し方につなげている。毎日の子どもの姿を振り返り、次にどう指導・援助していくかを考え、保育日誌に記載している。年齢に応じて定期的に発達を確認し、職員が子どもの状況を把握して申し送りやクラス会議、職員会議の中で共有し、子どもの育ちを支援している。</p> <p>「知りたい、試してみたい」—子どもの心を揺さぶる環境を整備している</p> <p>目の前の子どもが何を感じてどうしたいのかなど、言葉で表現しきれない気持ちにも心を寄せ、子どもが様々な物や事柄に関心を持てるよう関わっている。遊びたくなるような玩具を用意し、園庭には昆虫が集まってくる草花や実のなる木を植え、子どもが自然に関わり遊ぶ面白さに気づき、自ら「知りたい」「試してみたい」という主体的な遊びが展開されている。異年齢交流も実施している。異なる認定区分を超えて同じクラスで生活し、互いの生活の違いを理解し認め合えるよう支援している。</p> <p>「心の行き違いは人間関係の土台作り」—気持ちに寄り添う丁寧な対応を大事にしている</p> <p>区の巡回指導を活用して個別性に配慮した援助の実践につなげている。子ども同士の心の行き違いによるトラブルなどは、「人間関係の土台を作る機会である」という考えに立ち、なるべく見守り、怪我につながる前に仲立ちし、それぞれの気持ちを尊重し、分かりやすい言葉で諭し、解決に導いている。5歳児は就学を見据えて、身の回りのことは自分でやる、ハンカチやティッシュペーパーを自分で管理する、話し合いなどで自己表出する、当番活動で役割を果たすなどの経験を重ねている。</p>			

2 評価項目2		子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した教育・保育を行っている		評点(0000)
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう指導・援助している			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている			<input type="radio"/> 非該当
評価項目2の講評				
<p>家庭保育との連続性に配慮し、笑顔で一日をスタートできるよう取り組んでいる</p> <p>登園時は家庭での状況や体調、降園時間、連絡事項を確認するとともに、健康観察を行い、気になることはその場で保護者に確認している。必要に応じて引き継ぎノートにより速やかに全体に周知している。体温・食事・おやつ・午睡・排便などの個別の状況も記録し、共有している。睡眠が不足している場合は食後早めに入床、0歳児は子どものリズムに合わせて午前寝・午睡を提供、5歳児は午睡せず活動時間に充てるなどしている。体調が気になる場合は活動内容を調整し、水分補給や検温しながら経過を観察し、必要に応じて保護者に連絡している。</p> <p>生活や遊びの中で「やってみよう」とする気持ちが生活習慣の自立につながっている</p> <p>基本的な生活習慣の自立に向けて、保護者の置かれている状況や思いを受け止め、互いに連携しながら進めている。排泄では徐々にトイレに誘うなどして興味を持たせ、出来た時には褒め、自信を持てるようにしながら自立を促す声かけや関わりを実践している。着脱は子どもが自ら取り組めるよう環境を設定し、生活や遊びの中で自然に手先指先などの発達を援助できるよう、玩具や活動内容、環境設定などを工夫し、「やってみよう」とする気持ちを大切にしながら自立につなげている。</p> <p>保護者の笑顔につながるエピソードを伝えている</p> <p>園での子どもの様子は、対話や連絡帳、玄関掲示板への活動の様子掲示などにより、保護者に伝えている。食事・排泄・睡眠の様子のほか、子どもが楽しかったこと・嬉しかったこと・頑張ったこと・褒められたことなどのエピソードを伝えている。怪我や子ども同士の心の行き違いなどについての経緯や今後の対応方法なども報告している。保護者からの相談事には、担任だけでなく園長・副園長・栄養士・看護師も対応している。登降園時の様子から気になる場合は声をかけ、相談のきっかけを作ることもある。</p>				

3 評価項目3 日常の教育・保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう指導・援助している	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当	
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当	
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当	
評価項目3の講評			
<p><b>子どもの自主性、自発性の発揮を目指した計画の実践を追求している</b>          子どもの自主性・自発性、積極性の発揮を目指した指導計画を作成し、実践につなげている。年間指導計画を踏まえて月や週の計画に具体的な活動を位置付け、提供している。様々な行事の中では、子どもの無限の可能性の発揮を目指しチャレンジする大切さを伝えている。朝夕の合同保育では、コーナー保育に加え自由遊びの時間を保障し、お気に入りの玩具や絵本などで楽しんでいる。広い教室・保育室を有効利用し、子どもの発達や季節に応じてコーナーを工夫したり、遊びの継続性を保障したりするなど配慮している</p> <p><b>子どもが見通しを持ち、主体的に一日を過ごすことができるよう工夫している</b>          見通しを持って活動に参加できるよう、朝の会でその日の活動の流れを子どもに伝えている。また、日常の遊びや活動、生活の中で、その場に合った言葉を伝え、相手に通じた時の気持ち良さを味わえるように援助している。行事への導入や子どもの興味に応じて絵本を取り入れ、自由に借りられるようにしている。専門講師によるリミックや英語などのプログラムを隔週で、体操は週1回、それぞれ実施している。そのほか、日常的に自由に制作できるよう様々な道具を選んで使える環境を整えている。</p> <p><b>季節の移り変わりを実感しながら豊かな経験を積んでいる</b>          園庭にはどんぐり、松、いちよう、梅、みかんなどの実のなる木や、カマキリ、カブトムシ、コオロギ、ダンゴ虫、とんぼ、バッタ、モンシロチョウなどが集まるシロツメクサなどの植物を植えている。実を集めて制作に活用する、梅の実でジュースを作り近所にお裾分けする、虫探しを通して季節の変化を実感するなどしている。生活や遊びの中で、物の貸し借り、トイレの順番を待つ、相手の話を聞くなど体験を積み重ねている。また、ルールのある遊びや席替えでのグループ名決定のための話し合いなどを通して、気持ちをコントロールする経験を重ねている。</p>			
4 評価項目4 日常の教育・保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○ 非該当	
評価項目4の講評			
<p><b>子どもの興味や関心を踏まえた年間行事を計画・実施している</b>          年間の各行事にはねらいを設定し、その行事が子どもに相応しいものに視点を置いて決定している。日本古来の行事を積極的に取り入れ、制作や歌などの表現活動や遊びに活かしている。お話や絵本、紙芝居などを取り入れながら行事の由来などを伝え、子どもが行事の意味を理解できるようにして取り組んでいる。そのほか、自然物を取り入れたオブジェを工夫して作り展示するなど、室内でも季節の変化を感じられるよう取り組んでいる。</p> <p><b>年齢に応じた行事への参加形態を工夫し、心の成長につながるよう取り組んでいる</b>          乳児クラスでは個を大切に、幼児クラスでは一つの物を皆でやる活動を取り入れ、年齢・発達に合わせたねらいを掲げ行事を実施している。皆と一緒に同じことに取り組む楽しさ、友だちの良さに気づき一緒に活動する楽しさ、その活動をやり遂げるために、友だちと共通の目的を持って工夫・協力しながら皆と一つの事をやり遂げる喜びなど、味わっている。5歳児は運動会のリレーの順番を自分たちで決定し、発表会では演目を話し合って登場人物や役割、セリフを決め、必要な道具作りなどに取り組んでいる。</p>			

5 評価項目5 在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 在園時間の異なる子ども同士が楽しく遊べるよう配慮をしている	○	非該当
● あり ○ なし	2. 在園時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○	非該当
● あり ○ なし	3. 在園時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○	非該当
評価項目5の講評			
<p><b>在園時間の異なる子どもが楽しく遊び、関わることを大切にしている</b>  1号認定、2・3号認定と、認定区分の違いは、在園時間の違いとして表れる。そうした中でも、1号認定・2号認定の子どもが同じクラスでのプログラム(主活動)を共有し、共に遊び生活し、自然と関わり、友だち関係を作れるようにしている。3歳児以上は1号認定児の登園を待ち9時に朝の会を実施し、降園する13時半には活動に区切りがつくようお別れの会を実施している。それ以降在園する子どもには、知育活動として静かにテーブルで落ち着いた時間を提供したり、自由遊びやコーナーなどの設定保育などを提供している。</p> <p><b>在園時間が長い場合も楽しく過ごせるよう配慮している</b>  在園時間の長い子どもが安心して過ごせる環境を整えている。合同保育は2歳児室を使用、7時45分には幼児は階上へ、8時には乳児がクラスへ移動している。夕方は18時15分に2歳児室に集合し、補食を提供している。朝夕の合同保育は子どもの声を活かしてコーナー保育などを行い、大きな子が小さな子に玩具を譲ったり、絵本を読み聞かせたり、小さな子が大きな子に甘え、大きな子が慈しむ姿は、子どもだけの安心な世界である。夕方は畳のスペースでくつろぐこともでき、日中とは異なる玩具を準備するなど工夫している。</p>			
6 評価項目6 子どもが食事を楽しめるよう配慮している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○	非該当
● あり ○ なし	2. 園で提供する食事は、メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○	非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○	非該当
● あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○	非該当
評価項目6の講評			
<p><b>子どもが意欲を持って健康的な食を楽しめる取り組みがある</b>  「食べることを楽しむ子ども」を食育計画のスローガンに掲げ、各年齢に応じた配慮・指導をしている。食事の際は、椅子に正しく座り足裏は床に着け、食器は指で引っ掛けて持たない、口に物が入っている時は喋らない、口を閉じて食べるなど、個別に指導している。年齢が低い程一緒に食べる人数を少なくし、落ち着いて食べられる環境を整えている。手掴み食べる経験を大切に、食具を正しく使いこなし自分で食べる力を育てている。子どもも午前中の活動で身体を動かし、お腹を十分に空かせて食事に臨んでいる。</p> <p><b>献立や味付けなどを工夫し、美味しく食べられるよう取り組んでいる</b>  十分な栄養価、豊富な食材などを踏まえた献立に基づき、手作りで旬のものを取り入れ、香り、彩り、旨味などに配慮した食事を提供している。食物アレルギーは医師の指示の下除去対応し、テーブルを分けて専用トレイと食器を使用するなど、個別対応や安全確認を含め厳格に対応している。食事形態の変更については、刻みなど保育室で可能な物には対応している。苦手な物は予め減らし、無理をさせないよう配慮している。</p> <p><b>子どもが興味を持ち、食の大切さを実感できる食育への取り組みがある</b>  ピーマン、ナス、トマト、きゅうり、オクラ、インゲン、スイカなどを栽培し、水やりや収穫、食べてみるなどして、食への関心を育てている。法人の農園で一人5株のさつま芋の苗を植え、秋には芋ほりに出かけて収穫し、家庭に持ち帰っている。近隣の家庭にも配り「ありがとう」「ごちそうさま」といった言葉をかけてもらっている。園内では茶巾いも作りで小さい子どもも喜べる経験をしている。園庭の梅でジュースを作り、ビンに入れてこども園産のラベルを貼り、近隣の家庭に配っている。収穫した野菜を使ったカレー作りも経験している。</p>			



7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう指導・援助している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように指導・援助している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組みを行っている	○ 非該当	
評価項目7の講評			
<p>子ども自身が安全・安心の生活を身をもって理解できるよう取り組んでいる</p> <p>子ども自身が危険を理解し、自ら身を守ることが出来るよう取り組んでいる。園庭遊びや水遊び、体操教室などを通して身のこなしを身に付け、危険想定箇所では必ず安全指導を実施している。手洗いやうがいの大切さを伝え、手洗いキットも使用している。園庭の固定遊具や室内などで子どもが遊ぶ場合の危険予知を職員で行い、遊ぶ時の約束事を作り子どもと確認している。そのほか、危険防止チェックリストを活用して点検し、危険箇所には即対応している。保健衛生師が毎月来園し、空調・水・照明などの現状を点検している。</p> <p>日々の健康管理を確実にやっている</p> <p>検温、機嫌、鼻汁、目やに、皮膚、咳、便性、食事を日々観察している。SIDS対策としては、乳児は5分毎、幼児は15分毎に睡眠時の様子を確認している。乳幼児の蘇生法や感染症対策については、園内研修を実施している。嘱託医による定期的な内科検診や歯科検診、身長・体重・頭囲・胸囲の測定などを行い、それらの記録は保護者とも共有している。歯科医と連携して、歯を磨かなくてもよい食事を提供し、歯みがき指導は行わずうがいを励行している。</p> <p>日々の体調を保護者と共有し、また、保健情報を提供している</p> <p>園内の共有箇所の清掃は清掃担当の非常勤職員が、保育室内の清掃や玩具の消毒などは職員が、それぞれ決められた手順に従って実施し、清潔保持に努めている。登園時に口頭で子どもの体調を確認し、必要に応じて視診簿に記載して担任間で共有している。乳児クラスでは連絡帳を活用し、健康面について保護者と共有している。園で体調変化が見られた場合は、園内で流行っている感染症等も知らせ、医療機関への受診の際の参考にしていただいている。行政・保健所からの感染症に関する情報は玄関に掲示し、保護者に発信している。</p>			
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 保護者には、生活形態や子育ての考え方の違いなど、個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の教育・保育の活動への参加を促している	○ 非該当	
評価項目8の講評			
<p>利用時間の異なる保護者の状況を踏まえた対応をとっている</p> <p>保護者の意見・要望などは日常的な対話や行事後のアンケート、保護者会、面談、意見箱などを通して把握し、職員間で検討して運営に反映している。2・3号認定の保護者の場合は、急な残業にも柔軟に対応し、1号認定の保護者の場合も、要望に応じて月極め・スポットによる預かり保育を実施している。家庭でも絵本の読み聞かせを取り入れ、親子で心地よい時間を過ごすことが出来るよう、また、子どもが良質な絵本を読んでもらうことで、豊かな言葉に触れられるよう、図書の貸出しもやっている。</p> <p>保護者同士、保護者・職員間の信頼・協力関係を深めている</p> <p>新年度は4月に行う「春の親子遠足」で子ども・保護者・職員が一同に介し顔合わせ、スタンプラリーで和気あいあいとし、各家庭手作りの弁当を囲み交流を図っている。運動会では、子どもの成長を喜びながら保護者同士もチームを組んで競技に参加している。登降園時には必ず担任をはじめ職員が短時間であっても言葉を交わしている。園長・副園長も玄関に立ち保護者と挨拶を交わし、保護者の側から声をかけたり、相談したりしやすくなるようにしている。保護者の不安な様子を見逃さず声を掛け、適宜面談を実施している。</p> <p>子育てに関連する保護者の悩みや疑問を解消できるよう取り組んでいる</p> <p>保護者会は各クラス年2回開催し、園での子どもの様子を収めた動画を活用したりしながら、子ども一人ひとりの育ち、教育・保育で大事にしていることなどを保護者が改めて理解・確認出来るよう取り組んでいる。また、保育参観の期間を設定し、我が子や他の子どもの成長していく姿に触れ、園での様子を知り、また、成長の見通しなどを得られるようにしている。そのほか、専門機関から講師を招き、子育てについて学ぶ機会を設けている。</p>			

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当
評価項目9の講評		
<p>地道な取り組みで近隣住民から認められ、自然な交流が育まれている</p> <p>職員をはじめとして子どもや保護者も近隣住民と自然に挨拶を交わす関係性が育まれている。園庭の梅の実で作ったジュースや収穫したさつまいもを各家庭に配って歩き、お礼の手紙などをいただくなどの交流がある。また、体験学習の中高生の受け入れは、双方にとり貴重な体験の場となっている。そのほか、区独自の取り組みである公立・私立、認可・無認可の枠を超えて保育の質を高める地域活動ネットワーク(保育ネット)にも参加し、近隣のこども園や保育施設と「となり組」を作り、連携を図っている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	子どもの命を最優先に捉えた危機管理の実践がある	
内容①	今年度は秋に大型台風の襲来があった。気象予報や実際の暴風雨、それらを踏まえた被害の想定、その後の開園の見通しなどを立て、対応策を協議した。起こりうる事態を場合分けし、それぞれの場合における対応策を策定した。保護者への緊急メールの配信内容も事態別に作成し、事態の変化に応じて迅速に発信しうる態勢を整えた。当日は区の窓口も業務を休止していた中、命の安全を第一に考えて決断と対応策の実行を行った。「何を優先すべきか」を常に念頭に置いて運営を行ってきたことが、危機的な事態における的確な判断や行動につながった。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた指導・援助を行っている
タイトル②	子どもの成長に資するよう、環境や活動を一貫した計画に位置づけて実践している	
内容②	木目調を主体とした園舎、木製の家具や玩具など、落ち着ける環境を整えている。特に玩具は、子どもの想像の広がりを意図して色のない木製のものを導入し、同時に、成長・発達に応じた手作り玩具も準備し、存分に遊びに集中できる設定にしている。また、日々の活動に加え、外部講師によるリトミック・英語・体操教室を実施している。体操教室では年齢に応じた内容で、活動のルール、身体の動かし方、協働する楽しさ・悔しさ・達成感などを育てている。確固たる視点に基づいて様々な活動を計画に位置づけ、多様な経験を保障し、心身の育ちを支えている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル③	専門性を活かして子育て世帯に対する支援を実施している	
内容③	地域の子育て世帯を対象に、様々なプログラムを企画し、交流や体験、相談の場を提供している。園児との交流や身体測定のほか、育児相談への対応、離乳食の試食、感染症予防のお話など、専門性を活かした支援を行っている。また、助産婦を招いて入園前にしておきたいことについて話を聞くなど、不安や疑問の解消にもつなげている。ニーズの高い取り組みであり、参加者にも好評である。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	一貫した運営・保育実践のための確固たる視点を提示し、浸透を図っている
	内容	大規模な園を円滑に運営していく上で、理念や目標の共有は不可欠である。そこで、2か月に1度、全職員出席の会議を土曜日に開催し、理念やビジョン、「何を大事にして保育していくか」という方向性を確認し、合わせて、研修や情報共有を行っている。また、「教育・保育従事者の心得」として教職員ハンドブックを作成している。保育の質を維持・向上させていく上での基本的共通事項を明確化し、共通理解の土台として、各自の学びや実践を奨励している。これらにより、園としての軸となる視点を日頃の実践の中で具体化できるように取り組んでいる。
2	タイトル	子どもの姿を捉えた日々の記録が職員自身の視点の深まりを表している
	内容	教職員ハンドブックによる基本的共通事項の提示、面談を通した各自の自己目標に基づく取り組みの振り返り、記録類への指導などを通して、職員一人ひとりの成長を促している。特に、日々の保育の実践記録である日誌について、子どもの成長を的確に捉え、保育士が必要な関わりを実践していけるよう、指導を積み重ねてきた。その結果、記載内容も子どもの心の動きや関心、どのような力を身に着け、どのような育ちを見せているのかといったことを捉えたものになってきている。こうした記録の変化は、職員の見方の変化であり、成長の証である。
3	タイトル	園庭環境を整え、豊かな感性や他者との関わりなどの多様な経験を保障している
	内容	園庭環境の充実に取り組んでいる。園庭には様々な実のなる木や、多くの昆虫が集まる草花を植えている。実を集めて制作に使用する、梅の実でジュースを作り近所におすそ分けする、虫を探し観察する、野菜を育て収穫し食べるなど、環境を活かした取り組みを通して、豊かな感性や他者との関わり、地域とのつながりなど、多様な経験に結び付けている。季節感溢れる自然環境を充実させていくことで、子どもの好奇心や探究心を刺激し、活き活きとした日常生活を送ることができるように取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	こども園の実情に即した育成の仕組みのあり方を検討していく
	内容	本園は法人として運営する初めてのこども園であり、保育の計画や職員の心得、その他運営上必要な書式や帳票類を徐々に整えてきた。職員の成長の見通し、各段階で求められる力量などの見通しを示すキャリアパスの仕組みは、現在は学校法人として教職員を対象としたものがある。キャリアパスと連動した育成を図っていく場合、より実態に即した仕組みが必要となってくる。どのような仕組みを整えていくか、法人とも連携して検討していくことを課題としている。
2	タイトル	引き続き、一人ひとりの意識の向上を図っていく
	内容	組織としての共通目的や共通認識を促進していく前提として、確固たる方向性がある。そして、その方向性を共有していくための実践として、教職員ハンドブックや全職員参加の会議、日々の指導、0歳から5歳までの一貫した教育・保育のための計画の見直しなどがある。こども園自己評価票をはじめ、ねらいや目的に基づく園としての実践は多岐に渡る。資質向上の責務を有する専門職として、職員各自が園の様々な取り組みを知り、全体の動きと自身の働きを関連付けて理解できるよう、今後も一人ひとりの意識の向上を図っていくことを課題としている。
3	タイトル	示された意向を分析し、課題の抽出を行う
	内容	開設後初めての第三者評価の受審であり、保護者アンケートにも様々な声が寄せられた。それらを分析すると、すでに行っているもの＝説明によって解消できるもの、継続的な検討、あるいは、説明が必要なものなど、いくつかの類型化が可能である。クラス別で実施したことで、クラスごとの課題の抽出や解決のためのアプローチの検討もより焦点を合わせて行いやすい。3年分の振り返りの基礎データとして有効活用し、次期以降の取り組みにつなげていくことを課題としている。